本学における理想的なボランティア活動のあり方
－本学と他大学のボランティア組織を比較して－

谷垣　卓　(生涯スポーツ学科　学校スポーツコース)
指導教員　柴田　俊和
キーワード：ボランティア　ボランティアセンター　３９レンジャー

１．緒言

私は、2010 年４月に、びわこ成蹊スポーツ大学ボランティアサークル「３９（さんきゅう）レンジャー」を立ち上げた。サークル長として、サークルを運営していく中で、本学ではボランティアを学ぶ機会が少ないことや、ボランティア活動を行う学生を支援する組織が無いことなどに疑問を感じた。そこで、本学にも龍谷大学や立命館大学のボランティアセンターのような、学生のボランティア活動を支援する組織が存在すれば、学生がボランティア活動をする機会が増え、より学生のボランティア意識が高まり、ボランティアを身近に感じることができると私は考えた。そこで本研究では、本学におけるボランティア活動の現状を明らかにし、他大学のボランティア推進組織を調査し、本学と比較しながら、本学における理想的なボランティア活動の在り方を示すことを本研究の目的とする。

２．研究方法

１)他大学でのインタビュー調査

龍谷大学ボランティア・NPO 活動センターと立命館大学ボランティアセンターを訪問し、ボランティアセンターでの活動内容などを調査した。

２)本学でのインタビュー調査

本学のボランティア活動に関係のある組織や科目で、現在どのようなボランティア依頼があるのか、などの現状や課題を把握することを目的に調査した。

３)アンケート調査

本学のボランティアサークル「３９レンジャー」の部員 43 名に、ボランティア活動の具体的支援など、本学の理想的なボランティア活動を見つけ出すためにアンケート調査を行った。

３．結果と考察

他大学のボランティアセンターでは、センターがボランティアの窓口となり、学生にメールや掲示板などでボランティア情報を流すと共に、ボランティア活動を行いたいがなかなか一歩が踏み出せない学生に、ボランティア体験ができるプログラムを考えたり、ボランティアを通して学生が学びと成長を深めるためのプログラムを体系化･開発したりしていた。センター全体で、学生のボランティア活動を支援していた。

他大学と比較し、本学は、ボランティアの窓口が様々で、ボランティアの専門知識がある職員がおらず、ボランティア活動が推奨されていないという事実が判明した。

４．まとめ

①本学にボランティアセンターを設置する。
②本学のボランティアの定義を明確にする。
③ボランティア活動団体を増やす。
④ボランティア活動を授業の一環として行う。
⑤現在行っているボランティアを評価する。

引用・参考文献

佐々木正道編著（2003）：『大学生とボランティアに関する実証的研究』ミネルヴァ書房　p. i、pp. 221-298